



二葉幼稚園

園のたより



1月の聖句

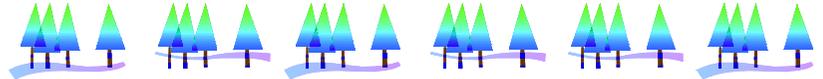
うけるよりあたえるほうがさいわいである

使徒言行録20章35節

1月のさんびか

さあダビデのように こどもさんびか改訂版13

じっくりと/かさねる



新年が開け、関西は晴天続きのお正月、一方世界では厳しい現実が続きます。復活と再生の蛇年に思いを重ねます。私は蛇が「地を這う」ことから人の誕生～成長の姿を思いました。乳児が他者との相互作用を通し、やがて自由に動き出す…

昨年10月から「ハイハイよちよち ふふふの絵本」という0,1,2歳児親子の子育て支援を始めました。0歳児の○ちゃんはじっくりと見て好きな絵本にはにっこ～と満面の笑み。生後2ヵ月の△ちゃんも絵本や童唄の間、全神経を耳に集中させるが如く聴いています。立ちも出き、動き出した◇くんは興味のある方へずり這いで一目散。あんよが得意な1歳児☆くんは好きな登場人物に唇突き出し歩み寄り「チュー」をします。お喋りができるようになった2歳児達は絵本に「くま」「がお～」「ばあ」等と反応し、頁を捲る子どもも。母の膝、胸を安全基地として思いのまま、そこに存在しています。

まどみちおさんの名曲。「ぞうさん ぞうさん おはながながいのね そうよ かあさんもながいのよ」時折、昔読んだ朝日新聞の記事を思い出します。まどさんは「象の子が鼻が長いとけなされている歌」だという。それでも象の子はしょげたりしない。むしろ、ほめられたかのように、一番大好きな母さんも長い、といばって答える。「それは象が象に生まれたことはすばらしい、と思っているからです」と。私達は人間に、もっと言えば自分に生まれてきたことをすばらしいと思えているでしょうか？私達は子ども達と出会い、共に過ごす中で、誰もが「僕は僕でよかった」「私は私にうまれてきてよかった」と思えるようにと願ってやみません。世界の惨事を思うと家庭では「我が子」が今、ここに「いる」こと、手を伸ばせば抱きしめられることだけでもどれほど…と言葉に詰まる思いです。育児が大変な中では、溜息が出ることも勿論ありますが神様に委ねて。

さあ、3学期です。集団生活には様々なルールや枠組みがあります。でも、各々の思い、表現や参加の仕方があることもわかります。大切なのは、今、ここに、子ども達がともにいる【意味】【喜び】があること。それをじっくりと見つめ、皆さんとご一緒にふたばっこ一人ひとりの成長を喜び合っていきたいのです！

2025年、私達は子ども達と「今をどう生きているのか、どう生きていきたいのか」を自らに問い、思いをかさねながら、脱皮を繰り返し、新たなる一步を踏み出していきます。

ふたばっこファミリーの皆様、今年もどうぞ宜しくお願いいたします。【園長】